石岡市推進委員会　委員長賞

「差別や偏見のない社会へ」

国府中学校　二年　朝賀　萌結（あさが　もゆ）

このところ連日のようにテレビのニュースでは、中国人の日本への団体旅行が解禁になったことが報道されています。

コロナ禍の中で、外国人旅行者が激減し、日本経済に大きな影響を与えていた事を考えると明るいニュースだと思います。

私の住んでいる地域では、最近たくさんの外国人を見かけるようになりました。

私の家の近所に大きなスーパーがあるため、多くの外国の人たちが、自転車や徒歩で私の家の前を通り過ぎて行きます。

私は、通り過ぎていく外国の人たちが、私の分からない言葉で会話をしているのを聞くと、なぜか抵抗を感じてしまい、自然と目を合わせないようにしたり、無意識に避けて通ってしまったりしていました。

きっと、相手の立場からすれば、とても嫌な気持ちだろうなと思うけれど、なかなか勇気を出して、目を合わせたり、あいさつしたりすることはできませんでした。

でも、これは逆に考えると、自分がもし他の国に旅行に行ったり、留学したり、生活したりすることになったとき、その国の人たちからこのような態度をとられたら、間違いなく嫌な気持ちになると思います。

先日、父が「最近、家の前を通る外国の子たちが、俺にあいさつしてくれるんだよ。みんなではないけど、自転車で通りすがりに大きな声で、「こんにちは。」って言ってくれるから、こっちも思わず「こんにちは。」って、大きな声で返しちゃうんだよね。なんか親近感がわくと言うか、あいさつを交わせるって相手が誰でも、全く知らない人でも、すごく幸せな気持ちになれるよね。」と言っていました。

これを聞いたとき、私は、これまで外国人というだけで、避けるような態度をとってきたけど、外国の人たちも、きっときっかけがあれば、あいさつを交わしたり言葉を交わしたりしたいのだろうなと思いました。

全く知らない国で生活をしなければならなくなった時、誰も知らずに不安な気持ちになるのは当然で、そんな時、何気ない出会いや言葉かけが、大きな不安の解消につながるのだろうなと思いました。

私は、これからの社会はますます国際化が進み、日本でも多くの外国人が

当たり前に生活するようになると思います。

当然、学校にも色々な国の子供たちが登校するようになります。友達の学校では、すでに何人もの外国人が登校しているけど、差別や偏見を持つことなく、普通に遊んだりしていると聞きました。きっと、私たちが大人になる頃には、外国人と意識することすらなくなっていると思います。

そんな世の中が身近に迫っている今だから誰もが差別や偏見無く生活できる社会こそが「明るい社会」だと考えます。